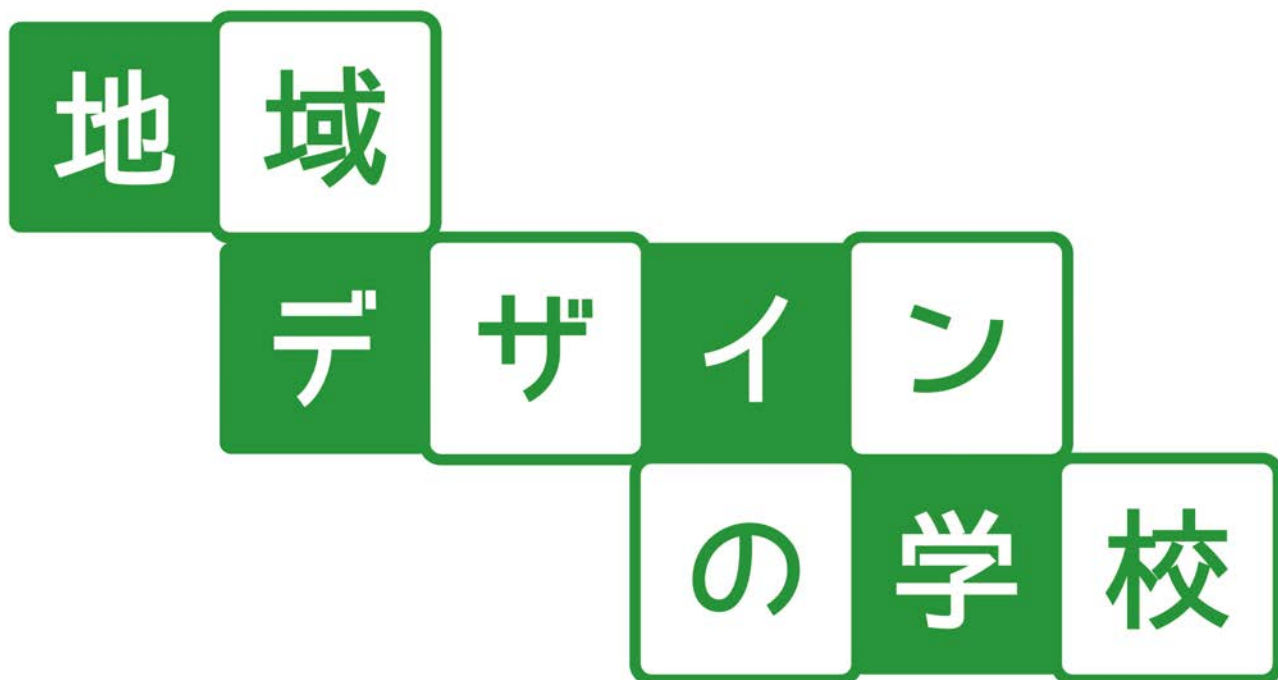


地域の支え合いのかたちをつくる



福岡市共働事業提案制度 平成 27 年度中間報告

事業の進捗状況資料

「地域デザインの学校」プロジェクト実行委員会

福岡市市民局コミュニティ推進部コミュニティ推進課

NPO 法人ドネルモ

(福岡市共働事業提案制度 平成 25 年度採択事業)

地域デザインの学校 とは…

「自分の興味」や「やりたいこと」をかたちにして、いろいろな活動につなげていくプロジェクトです。様々な年代や立場の人が集い、お互いに学びあい、つながる場を通じて、何かをはじめのきっかけや活動が生まれてゆく。そうやって「地域の支え合いのかたち」をつくってゆくことを目指しています。



(1) 共働のきっかけ・必要性

●NPOと市との「共働」の必要性

市民局の調査によれば、地域活動を大切だと考える市民は9割を越えるが、実際に地域活動に関わっている市民は3割に留まる。その3割は自治協議会を中心とする既存の地縁組織による活動だが、近年は担い手の不足と参加者の固定化が問題となっている。そこで、従来の活動者とは異なる層が、地域活動に関わるきっかけづくりが求められている。

福岡市は自治協議会等地縁組織の基盤強化事業に取り組んでいるが、自治協議会に関わりのない層へのアプローチが弱い。一方、NPO 法人ドネルモは「やりたいこと」や「興味があること」をきっかけに人々を活動へと誘うノウハウを有するが、地縁組織との連携を NPO 単独で行うことは難しい。そこで、地域活動に関わりの薄い層から担い手を掘り起こすとともに、地域活動者とのつながりを育むことで、「地域の支え合いのかたち」を生み出していくために、福岡市（自治協とのつながり）とNPO（新しい層への掘り起し）との共働が必要となる。

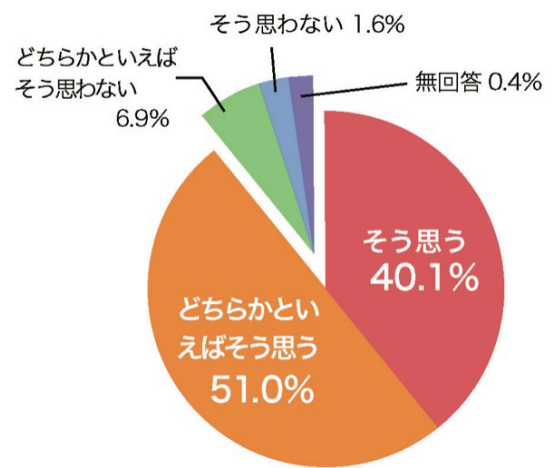
●NPOの提案理由

NPO 法人ドネルモは、超高齢社会に向けた地域コミュニティづくりに携わる中で、住民がお互いに支え合う関係づくりの必要性を痛感すると同時に、自治協議会を中心とする地縁組織では対応が困難な多様なニーズにアプローチするノウハウを培ってきた。この問題意識から、これまでに地域活動に関わりの薄い層を掘り起こし、地域内外の活動者とのつながりを生み出す本事業を提案した。

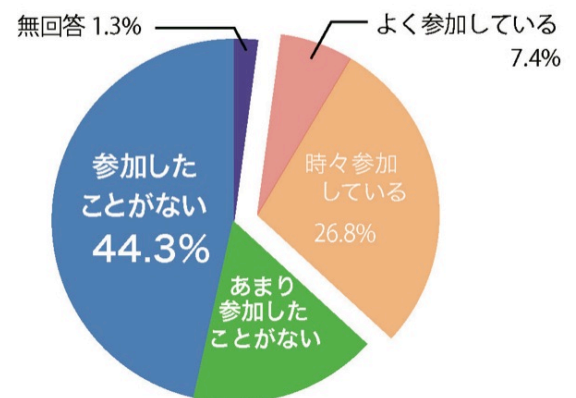
●市担当課が取り組む理由

NPOとの共働事業を実施することで、NPOの柔軟性とノウハウを活かし、地域への関心を持っている新たな層への働きかけと、事業を通じて得られたノウハウや経験等を今後の市の施策に活かすことができると考えたため。

Q1 地域活動は大切か？



Q2 過去2年間における地域活動への参加状況



『平成24年度市政アンケート調査報告書』より
(福岡市市民局コミュニティ推進事業部コミュニティ推進課)

(2) 事業の目的

● 本事業の目的：「地域の支え合いのかたち」をつくる

これまでの地域活動に関わってこなかった人々（全体の7割）と、既に活動をしている人々が、共に学びあう場を通じて、「やりたいこと」や「興味があること」をきっかけに、地域での活動を生み出し、お互いにつながりながら、これからの「地域の支え合いのかたち」をつくっていくモデルケースを、NPOと行政との共働を通じて開発する。

(3) 事業の目標

● 本事業が目標とする3つのポイント

- ① 地域活動に関わりの薄い層からの参加
- ② 「活動する人」をつくる
- ③ 活動を通じた波及効果

本事業では、初年度に1地域（1校区を中心とし、その近隣校区まで含む）でのモデルケースづくりを通じて、1地域を対象としたプログラムを開発する。次年度以降、開発したプログラムを他の地域でも実施し、フィードバックを得ながらプログラムの修正・洗練を重ねることで、これまでに地域活動に関わりの薄かった層から担い手を掘り起こすノウハウを、福岡市とNPOの共働を通じて培う。

本事業の実施を通じて、3年間で5地域20校区（1地域あたり、中心となる1校区とその周辺の3~4校区を含む）を対象に、1地域あたり20名強、3年間で100名強の担い手が、これまでに地域活動への関わりが薄かった層から生み出される。

本事業を通じて生まれるのは、主体的に地域活動に関わるマインドと具体的に活動を進めるノウハウを持ち、他の活動者（既存の地域活動、NPO、企業等）と地域内外で相互につながるネットワークを有する担い手である。

このように本事業では、上記の3つのポイントを目標とし、それぞれのポイントでの成果が生まれるよう、アプローチをしていく。

(4) 事業の内容【平成 26 年度】

地域デザインの学校では、対象地域（対象校区を中心に近隣校区を含む）を中心に、次の3ステップを実施する。

Step1：地域への事前調査／受講者の掘起し

→ヒアリング調査、受講者応募の広報

Step2：講座の実施

→全6回、各回10:00~15:00、午前と午後の2コマ

Step3：活動へのアフターフォロー

→卒業生が活動を始めるとの伴走型支援

(なお各年度の初めに対象校区の選定を行う。)

● 第1期：地域デザインの学校in千早

→対象地域：東区千早校区およびその周辺校区

Step1：事前調査/掘起し：2014.6~9 実施済

□ヒアリング協力者：30名

□ヒアリング協力者の主な所属

- ・千早校区自治連合会 ・各自治会 ・千早公民館
- ・青少年育成連合会 ・民生委員 ・東区社会福祉協議会
- ・千早校区社会福祉協議会 ・千早校区自主防災会
- ・育児サークル ・ふれあいサロン ・千早小学校PTA
- ・千早小学校 ・おやじの会 ・御幸保育園
- ・福岡工業大学 ・福岡女子大学
- ・千早に拠点を置く事業者（カフェなど）

□受講生募集の広報活動

- ・チラシ全戸配布：東区千早校区
- ・近隣校区の公民館へのチラシ設置
- ・新聞からの取材：毎日新聞
- ・フェイスブック等SNSでの拡散・周知
- ・ドネルモのHPを通じての情報発信
- ・ヒアリング時の呼びかけ



ヒアリング調査の様子（第1期 千早）



ヒアリング調査の様子（第1期 千早）



受講生募集のチラシ（第1期 千早）



新聞からの取材（第1期 千早）

(4) 事業の内容【平成 26 年度】

Step2：講座実施：2014.9~2015.1 実施済

- 受講者数：25名（定員20名/応募者30名）
- 受講者の居住地：東区千早校区を中心に近隣6校区
- 受講者の年齢層：30~40代が中心。21歳から78歳まで。
- 卒業生数：17名（卒業式での企画発表に参加した受講生）
- 卒業時に立ち上がったチーム：4チーム
- 講座実施日・タイトル（補講を含む）
 - ①入学式：2014.9.26(日) @千早小学校 音楽室
→「住むまちから暮らすまちへ」（オリエンテーション）
 - ②第1回：2014.10.26(日) @千早小学校 図書室
→千早に気づく/気づきを持ち寄る
 - ③第2回：2014.11.3(月・祝) 10:00~15:00@千早小学校 図書室
→ご近所インタビュー ~千早に気づく/気づきを持ち寄る~
 - ④第3回：2014.11.30(日)10:00~15:00@千早公民館
→活動のつくり方を知る！~企画をつくる上で大切なことを学ぶ~
 - ⑤第4回：2014.12.20 (土)10:00~15:00@千早小学校 図書館
→さらに深める！~企画をさらに具体的に作る~
- ※補講：2015.1.4/6/7/9@千早のカフェ、千早公民館等
→卒業式での発表準備のため、チーム毎に補講を実施
- ⑥卒業式：2015.1.11(日)10:00~15:00 @千早小学校
→思いをかたちに作る！~企画案の発表/今後のプランについて~

Step3：アフターフォロー：2015.1~3 実施済

- 活動者数：16名
- 活動グループ：4チーム→3チーム（類似企画のチームを統合）
 - ・「ちはやとくらす」：地域情報を扱うフリーペーパー
→千早ナチュラルマーケット（主催：5カフェ）と連携
 - ・東市民センターWelcomeプロジェクト
→市民センターやコミュニティセンターへのスタディツアー
→東市民センター移設に関するアンケート調査の実施
→並木広場あおぞら市（主催：ちはやふるかしい21）への参加
 - ・千早のシンボルマークをつくらう！
- 個別相談の実施：8回



入学式の様子（第1期 千早）



第4回講座の様子（第1期 千早）



アフターフォローの様子（第1期 千早）



活動の様子（ちはやとくらす）

(4) 事業の内容【平成27年度：実施済のもの】

● 第2期：地域デザインの学校in西長住

→対象地域：南区西長住校区およびその周辺校区

Step1：事前調査/掘起し：2015.6~8 **実施済**

□ヒアリング協力者：23名

□ヒアリング協力者の主な所属

- ・西長住校区自治協議会 ・西長住公民館 ・青少年育成連合会
- ・長住団地自治会 ・民生委員 ・西長住校区社会福祉協議会
- ・上長尾名店街 ・長尾病院（ケアマネージャー） ・長住保育園
- ・鹿助荘（特別養護老人ホーム） ・まいんず（地域情報紙）
- ・アジア日本語学院（日本語学校）
- ・spoonful&osaji（西長住の雑貨店） …など

□受講生募集の広報活動

- ・チラシ全戸配布：南区西長住校区、長住校区
- ・近隣校区の公民館へのチラシ設置
- ・新聞からの取材：読売新聞
- ・フェイスブック等SNSでの拡散・周知
- ・ドネルモのHPを通じての情報発信
- ・ヒアリング時の呼びかけ



ヒアリング調査の様子（第2期 西長住）



ヒアリング調査の様子（第2期 西長住）



読売新聞：2015.6.30



受講生応募のチラシ（第2期 西長住）

(4) 事業の内容【平成27年度：実施中のもの／予定されているもの】

● 第2期：地域デザインの学校in西長住

→対象地域：南区西長住校区およびその周辺校区

Step2：講座実施（全6回&補講）：2015.8~11 実施中

- 受講者数：21名（定員20名/応募者21名）
- 受講者の居住地：西長住校区を中心に近隣校区から参加
- 受講者の年齢層：30~40代が中心：23歳から82歳まで。
- 講座実施日・タイトル（補講を含む）
 - ①第1回：2015.8.30(日) @西長住小学校 図書室
→入学式（オリエンテーション）／ご近所インタビュー講座
 - ②第2回：2015.9.12(土) @西長住小学校 図書室
→ファシリテーション講座／地域課題について考えるケースワーク
 - ③第3回：2015.9.27(日) @西長住公民館
→ご近所インタビューの実施／やりたいことを言葉にする
 - ④第4回：2015.10.11(日) @西長住公民館
→アイデアをかたちにする
 - ⑤第5回：2015.10.24(土) @鹿助荘（特別養護老人ホーム）
→イベントの作り方講座／企画を更に練り上げる
 - ⑥第6回：2015.11.7(土) @西長住小学校
→企画案の発表/講座全体のふりかえり&これからのこと

Step3：アフターフォロー：2015.11~（予定）

● 第3期：地域デザインの学校in箕子

→対象地域：中央区箕子校区およびその周辺校区

Step1：事前調査&掘起し：2015.9~11 実施中

Step2：講座実施：2015.11~2016.2（予定）

Step3：アフターフォロー：2016.2~（予定）



第1回講座の様子（第2期 西長住）



第1回講座の様子（第2期 西長住）



第2回講座の様子（第2期 西長住）



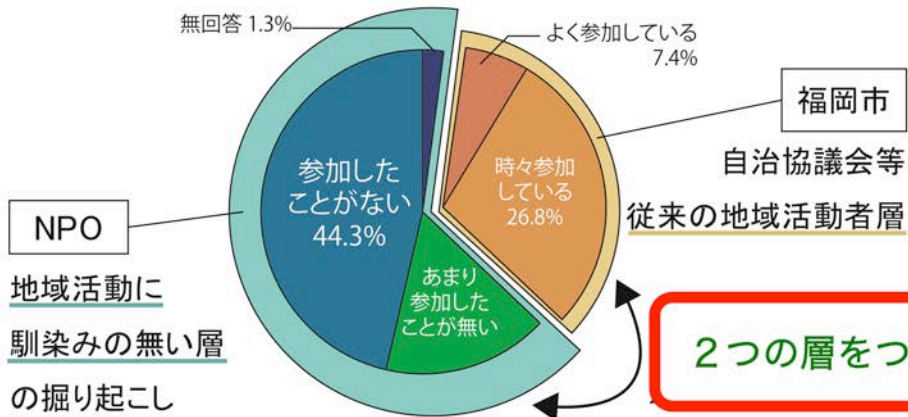
第2回講座の様子（第2期 西長住）

(5) NPO と市の役割分担

● 共働だからできること

□コミュニティ推進課の役割：地域との関係づくり

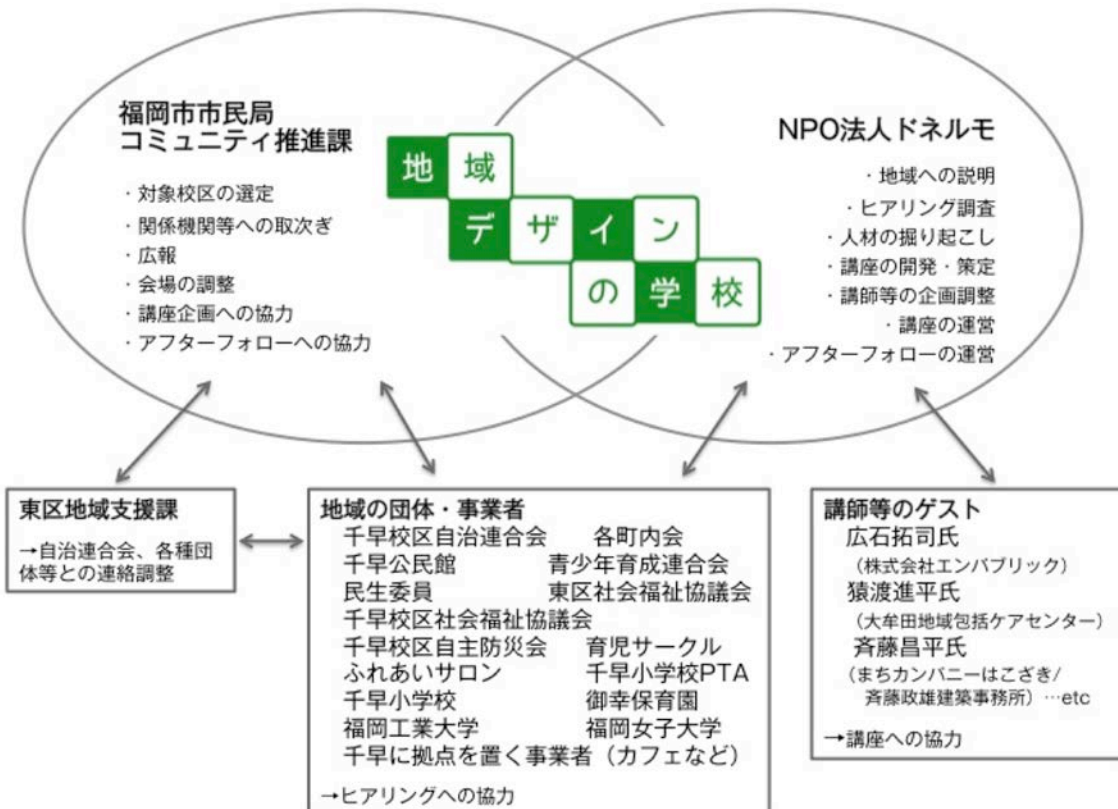
→市役所による呼びかけ、住民が信頼して参加しやすい。
地域の施設や受講者へのオフィシャルな広報が可能。



□NPO法人ドネルモの役割：プログラムの開発実施

→ドネルモの持つ幅広いネットワークから協力者への講師等呼びかけ
これまでの活動ノウハウを生かしたプログラムの実施が可能

● 具体的な役割分担（平成 26 年度の役割分担）



(6) 共働事業のメリット・成果

成果は、本事業が目標とする3つのポイントから検討される。

①地域活動に関わりの薄い層からの参加（第1期・第2期）

- 受講者の約8割が、既存の地域活動に関わりがないと答えた。
→「地域に関わりの薄い層」にアプローチしている。
- 受講者は30～40代を中心に、20代から80代が参加
→従来のコミュニティ施策ではアプローチが難しかった世代を中心に、多世代が集う場となっている。
- サラリーマン、自営業者、主婦、福祉関係者、自治協関係者、定年後の方、学生…等、多様な属性。
- 対象校区を中心に、近隣の数校区から受講生が参加。

②「活動する人」をつくる（第1期）

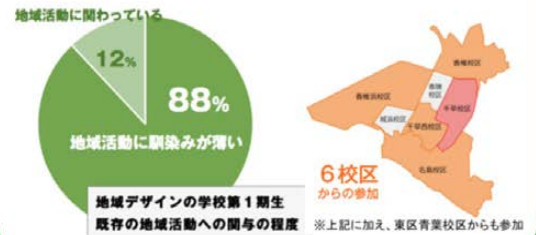
- 第1期卒業生17名：活動者16名／活動数：3
→受講して終わるだけでなく、実際に「活動する人」の誕生。
- 地域活動に関わりの薄かった層が大半を占める受講者たちは、卒業時に立ち上げた活動、既存の地域活動など、何らかの活動に関わるようになった。

③活動を通じた波及効果（第1期）

- 地域情報を扱うフリーペーパー「ちはやとくらす」の活動
→第1期の卒業生によるチームの活動：2015.3に創刊
- 地域の小学校との連携：全児童（約700人）への
「ちはやとくらす」配布
- 地域の自治協議会との連携：回覧板での閲覧
- 地域のソフトボールクラブとの連携：子どもたちによるグラウンド近隣マンションへの配布活動
- 地域の事業者との連携事業の誕生：千早の事業者「5カフェ」と連携し、「千早ナチュラルマーケット」を定期開催
- 地域のおやじの会との連携
千早ナチュラルマーケットにおやじの会が参加
- 既存の地域活動（イベント）への参加協力
千早の「並木広場あおぞら市」への参加

受講者の特徴

- 受講者の88%が、既存の地域活動への関わりが希薄
- 30～40代中心（20歳～78歳まで）
- 多様な属性（サラリーマン、主婦、自治会役員、定年後の方...）
- 6校区からの参加（千早中心に近隣5校区）



活動者の誕生

- 卒業生の9割が活動
- 受講生の8割が卒業



受講生：講座受講1回以上
卒業生：卒業式で企画発表に関わった人



ちはやとくらすと5カフェの連携

(6) 共働事業のメリット・成果

● メディア情報

→代表的なものを紹介



西日本新聞に掲載（地域デザインの学校第1期卒業式）



毎日新聞に取材記事（ちはやとくらす）



毎日新聞に掲載（地域デザインの学校第1期卒業式）



読売新聞に掲載（ちはやとくらす）

(7) 共働する上で苦労した点・工夫した点

● 工夫した点

□現場をできる限り共有する

行政担当者と NPO 担当者が、できる限り現場を一緒に行動し、ともに考えることに努めた。行政と NPO とでは、地域に対する考え方や行動原理が異なる。その点を踏まえた上で、個別のケースにおいて、どのようにアプローチすべきかに関して、丁寧な打合せを重ねた。

□福岡市の施策との調整

担当課の課長をはじめとする職員と NPO の職員の協議を通じて、行政の施策を共有し、次年度以降の本事業の方向性について協議することで、本事業の「共働」としての位置づけが、より明確となった。

● 苦労した点

□対象校区の「選定」の難しさ

既存の地縁組織（自治協議会など）に対して NPO と共働で実施する本事業の趣旨や意義を伝える点で苦労を重ねた。NPO のノウハウを活かして、既存の地域活動に馴染みの薄い層にアプローチするという本事業の趣旨に対して、多くの既存の地縁組織は、その趣旨に賛同しつつも、同時に次のような懸念の声が聞かれた。

- ①自治会等、自分たちの仕事が増え、負担が更に増えるのではないかな？
- ②どんな人が参加するのか不安。自治会組織とは異なる、新しい団体をつくるのではないかな？
- ③成果が見えにくい。自治会の役員がすぐに見つかるのではないかな？

本事業の説明に際しては、まずもって①に配慮し、本事業が自治協等の負担にならない点を強調した。もっとも①の点が納得されると、次いで②が問題となる場合がある。その場合には既存の地縁組織とも相談しながら事業を進める運びとなるが、この段階で「やはり相談に応じるのは負担」とされ、受入れが拒否されたこともあった。もっとも2年目となる本年度では、初年度の実績をまとめた資料（動画や写真資料）示すことで、具体的にイメージができるようになったこともあり、よりスムーズに理解が得られた。また③に関しては、あくまでひとつのきっかけであり、直ちに自治協の増員には結びつかないことを、丁寧に説明を繰り返している。

もっとも、実際に受講生を募集すると対象校区を中心に近隣数校区から受講生が集っており、また事前調査でも校区をまたがって活動者へのヒアリングを進めることが常である。その点を考慮すると、一つの小学校区を対象とすることの意義が、自治協関係者にとって腑に落ちないのも無理はなく、次年度では、一つの小学校区のみを対象とせず、一定の校区のまとまりを対象に実施することを検討している。

(8) 担当者の声・市民の声

● 受講者の方から

【応募動機から】

「自分の住んでる町をもっと知りたい&結婚や育児をして、地域と繋がりたいと思うようになった。いろんな方の話を聞きたい。ディスカッションしたい。」(30代・女性)

「地域交流などをまったくしてこなかったので、将来的に不安を覚えている。何ができるかわからないがこれを機会に地域の方々の知り合いを増やせたらと思い応募した。」(50代・男性)

【卒業時のコメントから】

「地域の活性化に自分たち市民でも関わることができるんだと驚いた。」(40代女性)

「『どうせできない』と思っていたが、『やるぞ!』という気持ちになった。」(70代女性)

「いろいろな方と話して、何か共通の思いがあるんだなと気づいた。みなさんと議論していくなかで、少しずつ、最初の自分の考え方や感じ方が変わっていった。」(50代・男性)

「まだもやもやしているが、既に活動している人たちと自分たちで、一緒に課題を解決していきたい。」(30代男性)

「自分の住んでいる千早についてあまり考えたことはなかったけど、講座に参加してみて、やっぱり長年住んでいる千早に愛着があるなと思ったし、私は千早のことをよく知っているなと思った。」(30代女性)

● 自治協関係者から

「人と人のつながり」をつくっていかようとするのは、私たちも必要と思っている点なので、一緒にやろうということになった。受講される方には、初めてお会いする方も多く、1つ1つの結びつきからつながりができていけば、と思う。こうした若い世代の担い手づくりの一環として期待している。(千早校区自治協議会会長)

● 福岡市市民局コミュニティ推進課

NPOと共に地域へのヒアリングを行った際に、実際に地域で活動している人たちの思いや苦勞などを直接聞くことができ、今後の施策への参考となった。また、実際に参加者が集まったことで、地域活動や地域へのつながりへの関心が高いことや、地域にはたくさんの人材や資源があり、その掘り起しが大事だということを改めて認識した。

● NPO 法人ドネルモ

本事業は、元々はNPOの問題意識から提案されたものであったが、共働事業を進めるにあたり、担当課の課長・係長・担当者との対話を通じて、事業のビジョンはより具体的かつ有意義なものへと練り上げられてきた。また対象地域への関わりにおいて、行政担当者と一緒に行動できたことは、NPOの考え方やアプローチを地域に伝える際の信頼性の確保の面で、大きな効果があった。

(9) 28年度への展開

● 28年度の事業継続の必要性

地域デザインの学校は、3年間で5期100名の担い手を育成することを目標としている。こうした元来の趣旨に加えて、1年半の事業実施を通じて、次のような市民ニーズ・課題が新しく把握された。こうしたニーズや課題に応じるためにも、次年度への継続が必要と考える。

① 既存の「地域」に関わりが少ない人々の「地域活動」へのニーズ

本事業は、第1期では子育て世代を中心に30~40代が多い新興地域である東区千早校区（及び近隣校区）を対象に、第2期では60~70代が多い郊外の住宅地である南区西長住校区（及び近隣校区）を対象に、「地域デザインの学校」を実施してきた。実施した結果、各期の定員20名のところ、第1期では30名（選考後25名が受講）、第2期では21名（21名が受講）からの応募があり、その8割が、自治協議会等による既存の「地域活動」と関わりの薄い、30~40代の人々であった。（なお第3期では都心部でありながら古くからのコミュニティが共存する中央区簗子校区を対象としている）。

性格の異なる2地域で、「地域活動」に関わりの少ない人々から、定員を超える応募があったことを鑑みるに、自治協議会等での呼びかけや行政のコミュニティ施策では捉えられていなかった地域活動へのニーズが、他の地域にも潜在していると予想される。こうした潜在的な市民ニーズに応えるべく、次年度も本事業を継続実施し、地域の支え合いのかたちをつくる担い手の育成に取り組みたい。

② 発展期にある卒業生の活動への支援

本事業における「アフターフォロー」は活動立上げ時を支援するものだが、活動が発展段階になると、新メンバー獲得や組織内マネジメント、継続方法など、立上げ時とは異なる課題に直面する。現在、第1期卒業生から生まれた活動では、この課題に応じる必要性が高く、それは他の活動でも同じだと予想される。こうしたニーズに応えるべく、次年度では、アフターフォローとは別に、卒業生による活動で、発展期にあるものへの支援を実施する必要がある。

③ 実績のある受講生への地域の活動者の個別紹介

講座の受講生の中には、自治協の活動には関わりが薄いものの、地域を拠点に積極的に活動をしている実績のある方もいて、他の地域活動者とのつながりを強く求めている。その一方、我々が事前調査で見出した地域活動者の多くは、講座日程の都合等の理由で、受講生と接する機会が持てないことが多い。このように実績のある活動者のニーズを把握しながら、つながる機会を逃している状況にある。そこで次年度は、こうしたケースでは個別に紹介する等対応をして、活動が生まれるきっかけを促したい。

④ 「地域デザインの学校」シンポジウムの企画・実施

地域デザインの学校は、3年間で5期の開催を目指している。その各期から生まれた活動の発表会と相互ブラッシュアップの場としてシンポジウムを実施し、地域の担い手相互のつながりを育むことは、当初からの本事業の目的の一つである。また同時に、本事業の成果と意義を広く一般向けにPRし、潜在している地域活動へのニーズに訴える場としても有効と考える。

(9) 28年度への展開

● 平成28年度の事業計画（案）

① 「地域デザインの学校」第4期&第5期の実施

□第4期：地域デザインの学校

Step1：事前調査&掘起し：2016.6~8

Step2：講座実施：2016.8~2016.11

Step3：アフターフォロー：2016.11~

□第5期：地域デザインの学校

Step1：事前調査&掘起し：2016.9~11

Step2：講座実施：2016.11~2017.2

Step3：アフターフォロー：2017.2~

② 「地域デザインの学校」卒業生の活動（発展期）への支援

□第1期～第4期の卒業生への活動への個別相談支援：1期あたり4セッションを予定

□実施時期：各活動に応じて、個別に設定

③ 実績のある受講生への地域の活動者の個別紹介

□第4期～第5期の受講生のうち、実績ある受講生を地域の活動者に個別紹介

□実施時期：各期の講座実施期間に、適宜実施

④ 「地域デザインの学校」シンポジウムの実施

□各期から生まれた活動の発表会と相互ブラッシュアップのシンポジウム：一般参加可能

□実施時期：2017.2（予定）

⑤ 共働事業（3年間）のPR用レポートの制作

□共働事業のレポート作成（行政関係者、地域活動層へのPR）

□制作時期：2017.2~3